

# 診察室

Q

十カ月の孫息子についてです。六

カ月のころ、左目がいつもうるんでいることに気が付き眼科に行ったところ、「鼻と目をつなぐ鼻涙管が細くなっていて。目薬で様子を見て、治らないようなら管を広げる手術を」と勧められました。今もあまり症状は変わらないのですが、やはり手術するしかないのでしょうか。

A

(旭川市・E子) 質問の内容から、恐らく先天性

鼻涙管閉塞(へいそく)と



札幌・円山鈴木眼科院長

鈴木 信敬

## ブジーで管広げる手術を

思われます。鼻涙管の鼻への開口部は出生直後にはまだ閉じていることも多く、その後大部分は自然に開通すると言われています。しかし、お孫さんのように鼻涙管閉塞が残ることも決してまれではありません。

その場合、一般にまず抗生物質を点眼し、目と鼻涙管を結ぶ涙囊(のう)部をマッサージしながら様子を見ます。それでも治らなければブジーと呼ばれる金属の細い棒を目の端にある涙点から挿入し、閉塞部を通します。「管を広げる手術」とはこのことを指していると思われれます。

ぐらいには行った方がよいと思えます。一歳未満であれば九〇%以上治ります。ただ、慢性涙囊炎がある場合は年齢にかかわらず、初診時に行います。

一般の外来で短時間でき入院も必要ありませんので、お孫さんも主治医の先生の処置を受けられるとよいでしょう。一度ブジーを通して効果が見られなければ、二週以上間をあけて数回行います。

また、ブジーで治らなくても、シリコンチューブ留置術という方法もあります。難治のものは大きくなってから涙囊鼻腔(びくう)吻(ふん)手術を行うことがあります。その場合は、治療に対応できる大病院などを紹介してもらいましょう。

鼻涙管細く、涙がたまる